

世界劇場会議名古屋 の皆様へ

石田よしひろ

文化ビジョンについて、お答えします。

#### 1、名古屋市の文化芸術振興プランについて

私の犬山市における、歴史・文化を活かした「街づくり条例」の取り組み、4年前の県知事選挙立候補の際にもお示した私のマニフェストをぜひご覧ください。ポイントは、文化芸術の担い手をどう育て定着していただけるか、その発信力を高める環境条件をどう街づくりの中で作り上げていくか、ということです。名古屋の持つ歴史的な芸どころ、工芸の町としての伝統を活かし、20年前のデザイン博、今年のあいちトリエンナーレなどの成果を活かす視点も大事にしたいと思います。

#### 2、「劇場法」、名古屋市芸術創造センターについて

「劇場法」の発想と取り組みには、大いに賛意を表します。名古屋市芸術創造センターは、まさにその劇場法でいわれるところの「創造拠点劇場」という位置づけでなくてはなりません。現状で何が欠けており、どう機能の充実を図るべきか、関係者のご意見を幅広くお聞きしてみたいと思います。

#### 3、名古屋市公会堂について

ご指摘のとおり、1500席前後のホールが市内中心部にないという声をお聞きします。名古屋市公会堂は、建物それ自体としての文化的価値に加えて、文化的ランドマークとしての役割を担っている施設だと思います。活用しない手はありません。どんな改修が必要で、PFIを含めてどのような手法がありうるか、十分検討してみたいと思います。

#### 4、指定管理者制度について

公の施設管理を、民間に開放すべきだという「指定管理者制度」の発想は、極めて大切だと思います。ただし、これまでの行革的発想で、経費節減をもっぱら目的とした管理委託では、公の施設の機能が十分発揮されないという面も出てきています。利用者を含めた客観的評価を反映した管理のあり方へと「指定管理者制度」をバージョンアップさせる段階だと思います。